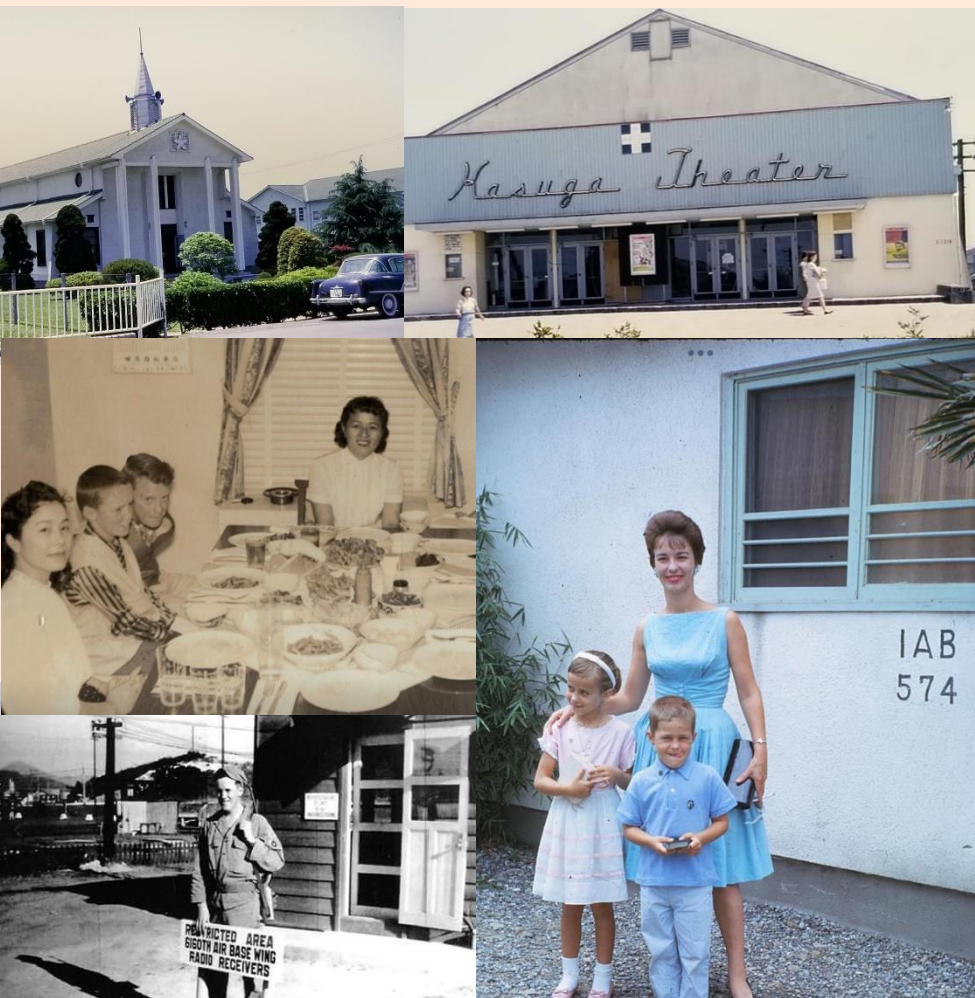


春日にアメリカの街が出現！？

第2次世界大戦で敗戦国となった日本は、米軍に占領され、春日市にも米軍板付航空基地の春日原住宅地区がおかれまして。ここでは兵士だけでなく、その家族も暮らしており、教会、学校、病院、店舗、映画館、ボウリング場、放送局等がつくられました。敗戦で日本人は貧しく、着るもの、食べものも無いなか、基地の中には、真っ白い壁の家、緑の芝生、ガレージには大きな自動車が、屋敷の中には、きれいな洋服を着た米兵の家族も暮らしており、肉、バナナ、ケーキ、冷たいアイスクリームが入った大きな冷蔵庫、在日米軍向けの極東放送からは流行の音楽が流れていました。



米軍ハウスとは…

1950年代から60年代にかけ、米軍春日原住宅地区(現在の春日市役所、春日公園、九大筑紫キャンパスなど)の周辺に特別仕様で建てられた民間借家が、通称「ハウス」といわれる建物です。当時は米軍将兵が住んでおり、木造平屋、水洗トイレ・バス・シャワー、出窓等がある洋風建築です。1972年の基地返還後は基地の痕跡はほとんど無くなりましたが、「ハウス」は日本人用住宅として残りました。最盛期には約1200戸ありましたが、現在は50戸程度が残存していると推定しています。



ハウスの壁面に残存するハウスナンバー。
IABは、ITAZUKE AIR BASEの略。

春日市春日公園にあった米軍ハウスをリノベーションしたカフェ。現在は取り壊され駐車場になっている。

保存の取組

春日ベース・ハウスの会は

米軍ハウスを、地域の失われつつある歴史の「物言わぬ語り部」として保存・活用しようと、2014年に発足しました。現地調査や関係者・市民への聴取り、市民向けの基地時代の痕跡を巡るまちあるき等に取り組んでいます。幅広い世代の方々に我がまちの歩みを知っていただき、次世代につなげていければと考えています。



↑まちあるき

←九大筑紫キャンパスにひっそりと残る米軍時代の消火栓



企画展では初期から返還まで基地勤務をされた庄島氏(1923年～)の聴取りを、レオ庄島資料として紹介。

記憶採集(聴取り)

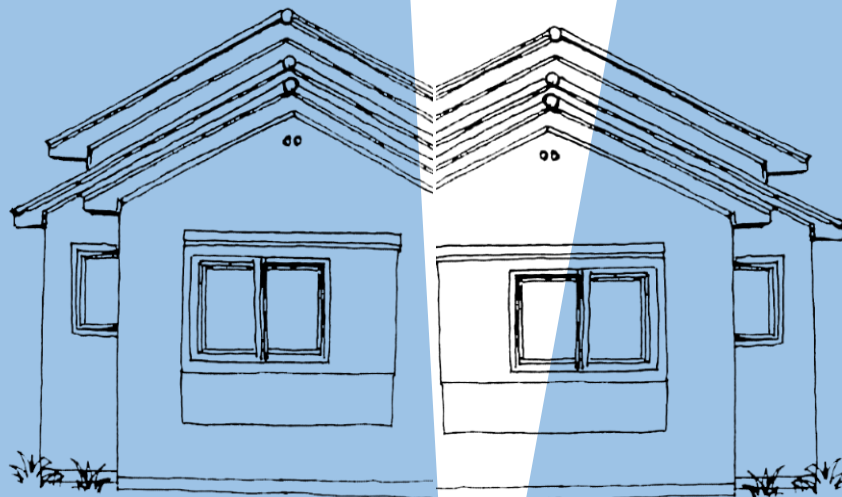
当時の生活や思い出などお聞かせください。
写真等をお持ちいただければ幸いです。

日 時 | 令和6年3月16日(土)、17日(日)、
20日(水・祝)、23日(土)24日(日)
30日(土)
いずれも10時～16時

場 所 | 春日市奴国の丘歴史資料館
特別展示室内特設コーナー



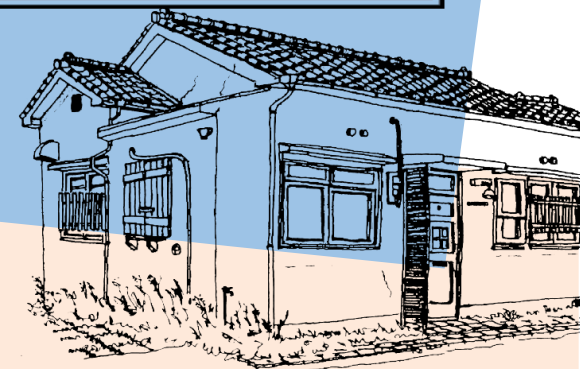
当時の映像、思い出の写真、
印刷物、品物などがありましたら、
どうぞお持ちください。



米軍ハウスのあった時代

～あそこ、春日のまちにアメリカがあったII～

I.A.B
84.0



春日市奴国の丘歴史資料館

【駐車場】22台(無料)

【交通手段】

- ・九州自動車道太宰府インターから車で20分(渋滞なし)(5.6キロメートル)
- ・JR九州鹿児島本線南福岡駅から徒歩20分(1.5キロメートル)
- ・西鉄天神大牟田線雑餉隈駅から徒歩24分(1.8キロメートル)
- ・コミュニティバス桜ヶ丘線「奴国の丘歴史資料館前」下車
- ・コミュニティバス須玖線「岡本1丁目」下車、徒歩7分(500メートル)



企画展

期 間 | 令和6年3月16日(土)～30日(土)

※3月19日(火)は休館日

時 間 | 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

場 所 | 春日市奴国の丘歴史資料館特別展示室

入場料 | 無料

主 催 | 春日ベース・ハウスの会

後 援 | 春日市、春日市教育委員会、福岡県教育委員会、(公社)福岡県建築士会
九州産業大学建築都市工学部、新建築家技師者集団福岡支部



会の情報はここから